

大阪大学基礎工学部／基礎工学研究科の 過去・現在・未来



巻頭言

岡村 康行*

Graduate School of Engineering Science, Osaka University - Past,
Present, and Future

Key Words : Engineering Science, Osaka University

平成23年に創立50周年を迎えました本学部・研究科は国立大学では唯一基礎工学（英文名はEngineering Science）を部局名とし、世界的に見てもユニークな教育研究機関だと自負しております。この機会を利用して頂き、成り立ちと現状、これから目指すところを紹介させていただきます。

創設の由来は51年前の昭和36年に、当時の政府が新しい工科系の大学を大阪の地に設置するという計画から始まり、真理を追求する理学でも実学を重視する工学でもないまったく新しい学部として大阪大学に創設されました。今となっては笑い話ですが、基礎工の創立間もない頃は、総合土木研究所が発行する月刊誌「基礎工」と同名であったことから、土木関係の学部と間違えられていたと聞いています。創設の理念は、初代学部長正田健次郎先生が提唱されました「科学と技術の融合による科学技術の根本的な開発、それによる人類の真の文化を創造する学部」で、旧来の縦割りの学問体系に縛られず、理学と工学の基盤領域の深化と学際領域の開拓にあります。平成15年の大学院再編後はより広範な複合学際領域の開拓や新学問領域の創成にも取り組んでいます。

専門性と学際性に富み、新しい学問領域を開拓する能力を有し、国際的に活躍できる人材育成を行っております。特に、外国人留学生を対象とした英語

のみの講義と研究指導により、修了要件を満たすことができる英語特別コースを開設しています。高度先端研究を進める国際大学院の実現に取り組んでおり、外部からも高く評価されております。

研究につきましては、本部局教員がリーダーを務める3つのグローバルCOEプログラム（「医・工・情報学融合による予測医学基盤創成」、「物質の量子機能解明と未来型機能材料創出」、「認知脳理解に基づく未来工学創成」）は、世界的観点からも研究の中心的役割を果たしています。また、組織的な若手研究者海外派遣プログラムを通じて、各国の研究機関への学生、教員の派遣や受入により国際ネットワークを形成しています。さらに、本研究科独自の取り組みである未来研究ラボシステムによる研究支援を通じて、研究科内の分野横断研究、他部局や学外機関との研究を推進し、大阪大学の学際領域融合の中心的役割を果たしていると考えております。

昨今基礎研究と応用研究とを結び付けるEngineering Scienceの重要性が再認識されつつあります。本研究科と理念を共有する海外の教育研究機関との連携を積極的に進め、世界の一線級の研究者と交流し、実質的な共同研究を実施できる環境を整備していきます。創設の理念を忘れず、新しい学問分野の創成に取り組んで行きたいと思っております。更なるご支援をお願い致します。



*Yasuyuki OKAMURA

1950年9月生
大阪大学大学院基礎工学研究科博士後期
課程修了（1978年）
現在、大阪大学大学院基礎工学研究科
教授 工学博士 光エレクトロニクス
TEL : 06-6850-6305
FAX : 06-6850-6341
E-mail : okamura@ee.es.osaka-u.ac.jp